

2026年6月1日
プレスリリース No.001-26

浜松初、立体音響による没入型コンサート
「SUAC Sound Experience 2026」
アコースモニウム・レクチャーコンサートを開催します

浜松市内で初めて、多数のスピーカーを用いた立体音響システム「アコースモニウム」による本格的なレクチャーコンサート「SUAC Sound Experience 2026」を、静岡文化芸術大学地域連携センターが開催します。
フランスの専門家と日本の第一人者が登壇し、音を空間で体験する新しい音楽表現を紹介します。

■アコースモニウムとは？

スピーカー・オーケストラとも呼ばれる、1970年代にフランスで生まれた電子音響音楽の上演システムです。観客を取り囲むように、大小さまざまなスピーカーを設置し、空間で音楽を演奏することで、立体的な音響体験を生み出します。

■開催概要

SUAC Sound Experience 2026 アコースモニウム・レクチャーコンサート

【日 時】2026年6月14日(日)

12時30分開場／13時開演(15時20分頃終演予定)

【会 場】静岡文化芸術大学 講堂(浜松市中央区中央 2-1-1)

【対 象】一般(どなたでもご参加いただけます。)

【参加費】無料

【申 込】事前申込制

6月13日(土)までに、チラシの二次元コードまたは大学公式webサイト掲載の申込フォームからお申し込みください。

(注)上限人数に達した場合、締切より早く申込の受付を終了する場合があります。

【主 催】静岡文化芸術大学 地域連携センター

【プログラム】

<講師／演奏>

ナタナエル・ラボワソン(IReMus-CNRS(音楽学研究所-フランス国立科学研究所)客員研究員)

檜垣智也(東海大学教養学部 准教授)

(裏面もご覧ください。)

<本リリースに関する問い合わせ>

静岡文化芸術大学 地域連携室

Tel. 053-457-6105 / Fax. 053-457-6123

Email. chiiki@suac.ac.jp

公式 Web サイト



<司会進行／演奏>

佐藤亜矢子(静岡文化芸術大学デザイン学部 講師)

日本と欧州の作曲家による作品上演

檜垣智也、佐藤亜矢子、アルマンド・バリス、フランソワ・J・ボネ、ソフィー・ドラフォンテーヌ

本学デザイン学部学生による作品上演

奥本千斗、加藤拓、竹浪啓太、宮里幸汰

■見どころ

本企画では、音を空間的に配置・移動させる音響表現について、解説と実演を通して紹介します。

当日は、フランスの専門家ナタナエル・ラボワソン氏と日本における第一人者 檜垣智也氏が登壇します。また、本学デザイン学部の佐藤亜矢子講師が司会進行と演奏を務め、アコースモニウムの歴史や聴きどころをわかりやすく解説します。あわせて、本学デザイン学部の学生が制作した電子音響作品も上演予定です。

多数のスピーカーにより音が会場内を移動し、包み込むように広がる没入型の音響体験は、通常のコンサートとは異なる新たな鑑賞体験を提供します。



※本イベントの詳細は、右の二次元コードより、本学公式 Web サイト掲載のイベント情報をご確認ください。



<本リリースに関する問い合わせ>

静岡文化芸術大学 地域連携室

Tel. 053-457-6105 / Fax. 053-457-6123

Email. chiiki@suac.ac.jp

公式 Web サイト



SUAC



SUAC

SOUND

EXPERIENCE

2026

アコースモニウム・レクチャーコンサート

6.14 Sun 開場 12:30 開演 13:00

会場 | 静岡文化芸術大学 講堂

講師/演奏

ナタネル・ラボワソン (IReMus-CNRS)

檜垣 智也 (東海大学 教養学部)

司会進行/演奏

佐藤 亜矢子 (静岡文化芸術大学 デザイン学部)

コンサートプログラム

日本と欧州の作曲家による作品

(檜垣 智也、佐藤 亜矢子、アルマンド・バリス、フランソワ・J・ボネ、ソフィー・ドラフォンテース)

SUACデザイン学部学生による作品

(奥本 千斗、加藤 拓、竹浪 啓太、宮里 幸汰)

入場無料

(事前申込制)



【主催】静岡文化芸術大学 地域連携センター【助成】公益財団法人 かけはし芸術文化振興財団【後援】浜松市、先端芸術音楽創作学会、日本電子音楽協会、hirvi【協力】東海大学教養学部芸術学科 作曲・音楽制作ラボラトリー (檜垣智也研究室)【企画】佐藤 亜矢子 (静岡文化芸術大学 デザイン学部 講師)【デザイン】名和 開司 (静岡文化芸術大学 デザイン学部4年)

Photo: 井上 嘉和

「アコースモニウム」をご存知ですか?スピーカー・オーケストラとも呼ばれる、1970年代にフランスで生まれた電子音響音楽の上演システムです。観客を取り囲むように、さまざまなサイズ・種類のスピーカーを多数設置し、空間で音楽を演奏します。今回はフランスから専門家を招き、日本における第一人者とともに、その歴史や聴きどころをわかりやすく紹介します。コンサートでは、本学学生が制作した作品も上演します。浜松初となるアコースモニウムイベント、どうぞご期待ください。



ナタナエル・ラボワソン
Nathanaëlle Raboisson

2004年から音楽カンパニーMotusおよびFestival Futuraのメンバーとして、アコースモニウムを用いたアコースマティック作品の演奏に携わっている。ドニ・デュフルとジョナサン・ブラジェに作曲と演奏を師事し、定期的にマスタークラス、ワークショップ、セミナーを主宰している。音楽学者としてデジタル芸術美学の博士号を取得し、フランス国立科学研究所(CNRS)傘下の音楽学研究所(IReMus)の客員研究員を務め、アコースモニウムを用いた電子音響音楽の実践と伝承に関する研究を行っている。2014年Motusの研究機関「MotusLab」を設立し、2025年までその運営を継続する。2005年よりMotusとFestival Futuraの事務局長を務める。2020年にはヴィラ九条山の研究創作レジデンスに選出。2024年にはフランス文化庁のMIRAプログラムに採択。2025年からフィミンコ財団およびENSパリ・サクレ研究センターにて2027年までレジデンス活動を行う。



Photo: Yukio Yoshinari

檜垣 智也
Tomonari Higaki

作曲家・アコースモニスト。愛知県立芸術大学大学院修了。博士(芸術工学・九州大学)。作品は欧米・アジア各地で上演され、フランスなどの欧米の公共放送等でも紹介。INA-GRM、Motus、ハーバード大学、ケルン大学、M.ar.eなど世界中のアコースモニウムを演奏。リュック・フェラーリ・コンクール最高賞、文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品、大阪文化祭奨励賞など受賞。Le Cube、ヴィラ九条山、ACA財団、フィミンコ財団などで滞在制作。Musiques&Recherches国際空間演奏コンクール審査員。Futura国際音楽祭メンバー、hirviグループ代表。現在、東海大学准教授、大阪芸術大学大学院客員教授。



会場 | 静岡文化芸術大学 講堂

〒430-8533 静岡県浜松市中央区中央 2-1-1



静岡文化芸術大学

SHIZUOKA UNIVERSITY OF ART AND CULTURE

JR浜松駅より徒歩15分/遠州鉄道 遠州病院駅より徒歩8分/遠鉄バス 浜松駅北口バスターミナル10番のりば バス停「文化芸術大学」下車

【お問い合わせ】静岡文化芸術大学 地域連携室 受付時間:8:30~17:00(土・日・祝を除く) ▼詳細はこちら

TEL:053-457-6105 FAX:053-457-6123 E-mail:chiiki@suac.ac.jp

※本学には駐車場がありませんので、公共の交通機関をご利用ください。

【Web】<https://acousmonium-hamamatsu.peatix.com>

